

第3回中野区バリアフリー基本構想改定協議会

1. 日時・会場

令和7年(2025年)3月10日(月)午前10時から午前12時
中野区役所 701、702会議室

2. 協議会の様子



3. 議事

- (1)第2回協議会について
- (2)移動等円滑化促進地区・重点整備地区について
- (3)区民アンケート調査・団体ヒアリングの結果について
- (4)移動等円滑化促進方針について
- (5)令和7年度のスケジュールについて

【報告事項】

第2回協議会について

○第2回協議会の質問事項の回答として、JR東日本より乗車料金の障害者割引について説明がされた。

【主な意見】

移動等円滑化促進地区・重点整備地区について

○「バリアフリー化に対する区民の評価」、「基礎評価指標」でのランクの表記の意味合いが反転しており、わかりづらい。表現を工夫してほしい。

区民アンケート調査・団体ヒアリングの結果について

○高齢者の中では、ほとんどの移動でバスを利用するという人が増えてきているので、歩道のない箇所にあるバス停などは乗りにくいので、改善してほしい。

○中野駅周辺の視覚障害者誘導用ブロックの上に自転車が停められていることが多い。また、歩きスマホの人が視覚障害のある方と衝突しそうで危険である。自転車利用者や歩行者への啓発啓蒙を進めていただきたい。

- 知的障害のある方は、慣れた場所への移動は大丈夫だが、いつもと違う場所への移動は苦手である。中野駅の工事に伴いバス停の位置も変更されると思うが、バス停の場所が変わる際には出来るだけ早く、分かりやすく案内をしてほしい。
- バリアフリー化は結果的に一般の方にとっても使いやすくなるということを伝える必要がある。例えば自転車や電動キックボードの正しい乗り方や危険性を子ども達に経験してもらう等の地道な活動が必要になるのではないかな。
- 中野ZEROホール、産業振興センター、中野区総合体育館等までの道は坂が多く移動が大変である。高齢者が良く利用する施設であるのでバリアフリー化の課題であると感じている。
- 車いすの大きさについて建築物等の一般的な基準では簡易的な大きさを想定しているが、車いすは様々な大きさ、重量がある。新しく作る施設については、大きい車いすについても考慮して設計していただきたい。
- 車いすの大きさは一般的に理解してもらえていないことが現在の課題である。その大きさでなければ移動が出来ない、その角度でなければ呼吸が出来ない等を理解していただくところから今後進めていかなくてはならない。

その他

- 今回の協議会では、高齢者や障害者への理解、心のバリアフリーについての意見も多かった。まち歩きの際に理解を深める様なイベントを実施してもよいと感じた。また、地域によってはバリアフリーだけでは解決できない意見もあったため、より広域的な視点で見えていかなくてはならないと感じる。
- 施設や道路のバリアフリー化は、一方にとってバリアフリーであっても、もう一方にとってはバリアになってしまうこと(バリアフリーコンフリクト)が前提にあると考えている。それを考えると、障害者への理解に繋がる啓発活動や心のバリアフリーというのは、誰にとっても重要なことである。中野駅を利用する学生への啓発として協議会委員の皆様のご協力をいただき、何か形に出来ればと思う。
- 施設や道路の構造等に関わる物理的なバリア、高齢者、障害者の方々への配慮に関わる心のバリア、また、高齢者や障害者の方々の移動や施設利用の際の時間のバリアの話があった。物理的なバリアフリー、心のバリアフリーを推進していくことで時間のバリアの解消も図られると感じた。

以上